

全船協

第128号 2015年5月 春季号



写真提供 JAMSTEC



一般社団法人 全日本船舶職員協会

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

URL <http://www5b.biglobe.ne.jp/~zensenk/>

<p>室町海運株式会社</p> <p>代表取締役社長 佐藤裕信</p> <p>〒101-0047 東京都千代田区内神田二丁目5番5号 城南ビル5階</p> <p>電話 (03) 5298-2570 FAX (03) 5298-2575</p>	 <p>北星海運株式会社</p> <p>代表取締役社長 佐藤有造</p> <p>〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号 セントラルビル6階</p> <p>電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575</p>
<p>株式会社 コトラシステム</p> <p>代表取締役 土屋正徳</p> <p>〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13 日本橋鮎佐ビル3階</p> <p>電話 (03) 3245-6975 FAX (03) 3245-6980 E-mail: cotrasystem@nifty.com</p>	<p>山友汽船株式会社</p> <p>代表取締役社長 望月正信(広島N-71)</p> <p>顧問 岩江成徳(広島N-55)</p> <p>〒650-0015 兵庫県神戸市中央区多聞通2丁目1番1号 多聞プラムビル2階</p> <p>電話 (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520 Email: sanyuksn@violin.ocn.ne.jp</p>
<p>一般社団法人 日本船長協会</p> <p>会長 小島茂</p> <p>〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 (海事センタービル5階)</p> <p>電話 (03) 3265-6641 FAX (03) 3265-8710 http://www.captain.or.jp</p>	<p>一般社団法人 海洋会</p> <p>会長 豊田耕治</p> <p>〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 (海事センタービル6階)</p> <p>電話 (03) 3262-8632 FAX (03) 3262-6909</p>
 <p>一般社団法人 日本船舶機関士協会</p> <p>会長 平井奉行</p> <p>〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地 (海事センタービル5階)</p> <p>電話 (03) 3264-2518 E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp URL http://www.marine-engineer.or.jp</p>	<p>人と海に未来を</p> <p>公益社団法人 日本海難防止協会</p> <p>会長 前川弘幸</p> <p>〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目1番3号 磯村ビル6階</p> <p>電話 (03) 3502-2231 http://www.nikkaibo.or.jp E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp</p>
<p>・海技教育支援事業 ・奨学金貸与事業 ・帆船海王丸体験航海事業 等</p> <p>公益財団法人 海技教育財団</p> <p>会長 宮原耕治</p> <p>〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4</p> <p>電話 (03) 3288-0991 URL http://www.macf.jp</p>	<p>海上の友</p> <p>船員と船員家庭のタブロイド版新聞 月3回1.11.21日発行 年間購読料 本体価格(8,460円) + 税 送料別</p> <p>海と船の雑誌 ラメール</p> <p>年6回奇数月発行 年間購読料 本体価格(4,002円) + 税 送料込</p> <p>お申し込み お問い合わせ (公財)日本海事広報協会</p> <p>〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6 電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580</p>



目次

表紙・・・海洋地球研究船「みらい」	1 頁
巻頭言・・・～今、会員が求めていること～	副会長 赤嶺 正治・・・ 4 頁
航海訓練所実習生 寄港地で手旗踊りを披露	・・・大島商船高等専門学校同窓会・・・ 5 頁
船内の廃 PET ボトル活用について	・・・鳥羽 S44E 小木曾 順務・・・6 頁
練習船日本丸ハワイ遠洋航海	・・・航海訓練所 フェイスブック・・・9 頁
2014 年度ジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞	・・・富山高等専門学校 千葉 元・・・13 頁
ポータルラジオ業務担当者へ安全講話を実施	・・・事務局長 七呂光雄・・・15 頁
後輩の皆さん 英語の勉強の大事さを痛感しております！！	商船高専卒業生より・・・16 頁
遅れ馳せながら仏教を想う	・・・名誉会員・海事保佐人 田中・善治・・・17 頁
市民カッターレースで青春の汗を流しませんか！！	・・・事務局・・・19 頁
海事ニュース	20 頁
北から南から	
富山高等専門学校	23 頁
鳥羽商船高等専門学校	26 頁
広島商船高等専門学校	30 頁
大島商船高等専門学校	35 頁
弓削商船高等専門学校	40 頁
航海訓練所	44 頁
本部・支部だより	47 頁
全日本船舶職員協会の無料船員職業紹介所	・・・事務局・・・49 頁
新事務局員紹介	・・・事務局・・・49 頁
お知らせ	・・・事務局・・・ 50 頁
会費納入者御芳名	55 頁
海の図書室	57 頁
時事寸評	58 頁
表紙写真解説 海洋地球研究船 みらい	・・・58 頁
編集後記	・・・59 頁

巻頭言 ～今、会員が求めていること～

副会長 赤嶺 正治



日本人船員の減少が叫ばれて久しく今も深刻な事態が続いています。日本人船員の減少は、日本人船員を会員とする全船協の運営・活動に財政面でも大きな影響を与えています。戦後全船協の会員数が最も多かったのは1980（昭和55）年の11,712人でした。それが2013（平成25）年には約1,200人までに減少しています。

特にここ数年で見えますと、諸政策により日本人船員数が横ばい傾向にある中、全船協会員数は減少を続け、それも加速していることが分かります。この状態が続けば当会の存続が非常に困難になる恐れがあります。

そこで、この困難を乗り越えるため、2013（平成25）年8月に全船協内に臨時アンケート委員会を立ち上げ、全会員に対して今後の方向性を問う緊急アンケートを実施しました。アンケート結果の内、未来に向かって全船協がどう活動すべきかについて、会員の皆様から寄せられたご意見・ご要望を見ますと、59歳以下、特に29歳以下について「就職・転職サポート」が首位を占め、自由記述欄の「就職・転職サポート」が充実すれば全船協入会メリットを大いに感じるとの複数意見は特筆に値します。

一方、1999（平成11）年11月30日に「新千年紀を迎える全船協・同窓会の課題」と題した座談会が全船協で開催されています。（内容は会報82号に掲載）当時全船協会員数は緩やかであります減少の一途を辿っており、この座談会では、新規会員対策が一番大きな課題であると指摘しています。その対策として新卒者への情報と職域の提供、現役会員への次の職域・福利厚生面でのバックアップを挙げています。そして、座談会の締め括りでは、会員の皆様に全船協が職域斡旋、職業紹介、人材派遣等を行っていることを認識していただき、長期的に会員の開拓や収益の向上に結び付けたいと述べています。

あれから十数年が経った今、会員減少は止まらず、現役会員の皆様からは当時と変わらない要望がなされている事実を私達執行部は真摯に受け止めなければなりません。そこで、私達は、喫緊の課題として先ず現役会員の皆様が切望する「就職・転職サポート」を学校側、企業側と連携して充実させることであるとの結論を得て、全船協の「無料船員職業紹介所」の整備に着手しました。会長室を廃止し会員用就職・転職相談室とし、常時会員あるいは潜在的会員の皆様のご相談に対応できるよう事務局の体制を整えています。また「無料船員職業紹介所」をより多くの方に知っていただくために、パンフレットやポスターの作成、HP等のリニューアルも進行中です。

「無料船員職業紹介所」の運営は、内閣府公益認定等委員会が承認した継続事業（・海事に関する調査研究・商船教育支援／乗船研修制度の実施、・図書発行／講演会実施／会誌発行、・船員職業紹介事業）のひとつであり、他の事業と密接な関係にあり、当該事業の展開は、他の事業の発展に結び付く重要なものとして位置付けることができます。

全船協の「無料船員職業紹介所」は、会員、潜在的会員およびご家族の皆様からもご相談を承る体制を構築することにより、少子高齢化と多様化する社会にあって、会員減少を食い止め、さらには公益活動を通じての社会的なポジションを確保できるのではないかと考えています。

時折定年退職を機に全船協を退会したいと会員の方からご相談を受けますが、前述のように多くの現役会員の皆様から、就職・転職のサポート、自身の付加価値を高める船員教育支援、卒業後の「社会満足」を高めるための交流の場の提供等が全船協に強く求められています。これにお応えすることは長い歴史の中にあつて全船協の使命であると考えています。現役を退いた後でもどうか後輩のために引き続きご支援を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

航海訓練所実習生が寄港地で手旗踊りを披露

大島商船高等専門学校同窓会

昨年、平成 26 年 10 月 25 日（土）・12 月 13 日（土）、航海訓練所の帆船日本丸で大島商船高等専門学校の実習生 25 名が広島港・横浜港で本校伝統の手旗踊りを一般に披露しました。

この手旗踊りは、5つの商船高専の中でも大島商船高専だけにある独自の踊りで昭和 46 年の商船祭から始まった 40 年以上の伝統ある手旗踊りです。現在でも 11 月 3 日の本校商船祭で 120 名もの 1 年生がこの手旗踊りを毎年披露しており、卒業生や地域の方々、学校職員が楽しみにしている伝統的な踊りです。1 年生は 2 年生、3 年生の指導の下に、約 1 か月前から放課後、空き地を選び、この手旗踊りを練習しています。商船祭の一週間前には、学内通路を利用し本番さながらの予行練習を繰り返し行い、本番に備えています。

手旗踊りの発明者は目下調査中ですが、ある程度のところまでは目星がついているため、次回の会報で発表できればと思います。

本校学生が帆船日本丸で手旗踊りを披露したことは大変な手柄であり同窓会としては今後も手旗踊りに対して何らかの援助をしたいと考えている次第です。120 名の男女学生が学科を問わず整然と並び、一糸乱れぬ手旗踊りは壮観であります。今回は寄港地で海のロマンスの曲と共に手旗踊りを披露し、多くの一般客を魅了しました。たくさんの方々から歓声が上がり、商船高等専門学校を知って頂くきっかけになったことは、海そして船への夢、あこがれ、ロマンを誘った場面でもありました。



船内の廃 PET ボトル活用について

異業種で活躍する会員からの願い

鳥羽 S44E

小木曾 順務

経済産業省は今年2月、中小企業の「特定ものづくり基盤技術の高度化に関する指針」でコトづくりに繋ぐために「デザイン開発の係わる技術」を追加した。この「デザイン開発の係わる技術」へ応募すべく準備を進めている。第3回ものづくり日本大賞を受賞した経験を活かし応募書類を作成するにあたり船舶の運航に関与されている会員各位にご理解を願いたく今後開発を検討中の食器情報を紹介させていただきます。

海から陸へ

省察すればあと4年ほどで人類が月面着陸して50年目を迎えるが、この時、私は青雲丸1世の処女航海（東回り世界一周）の途中で、シンガポール沖を航行中であつた。房総半島沖から観る水平線上に映る冬の富士山も綺麗だが、テレビ画像から見る地球の美しさも海の男なら誰も経験したのではないのでしょうか。太平洋の黒潮の色と親潮の色の美しさ、陸（おか）の人には絶対解らない。小笠原諸島界隈の「紺碧」の海を思い起こし短い期間ではあつたが、先人にならない海国日本の商船士官の一人として無事社会貢献できたと自負するところです。

磁器食器業界へ

資源の無い日本列島に明治期3千万人であつた人口が、今では一億人が生活している。この50年の歳月だけでも20万トン級のタンカーにして如何ほどの原油を消費してきたか。輸入原油は多々ある産業を支え、また、原油を資源とする多種多量のプラスチック製品を製造し消費という恩恵を国民にもたらしてきたか、一方ではどれほどのプラスチックを国民の一人として廃棄物として捨ててきたかである。今はまさに、国民が一丸となって廃棄物を資源化し活用しなければならない時代に入ったと言える。

明治期から、たかが150年で先人の努力でどれほど科学技術は進化した事か。これも如何に他国に比べ日本人が勤勉な国民であるか、理解できるのではないのでしょうか。江戸時代の昌平坂学問所の佐藤一齋の教えが、渋沢栄一氏が語った義利両全に繋がり先人達の教えもあり勤勉な国民が如何に多いかである。

エコ食器への取り組み

私は39年前（26才）、20万トンのM丸（M海運）で15ヶ月間乗船しこれを最後に陸に上がった。売りっぱなしの磁器食器販売に携わり鉾石船が運んだ貴重なボーキサイト（セラミック原料）が30%含有している事を知りながら長年にわたり資源保護を製造者として蔑ろにしてきたが、原料の輸送に係った船員としてここに気付き、資源保護の世界に身を投じることができた。



第3回ものづくり日本大賞、および第1回エコマークアワード受賞食器

所謂、商船学校卒がここで初めて活かされたのである。10年前の55歳の出来事である。開発した素材（ポークサイト 30%配合）が天下一割れにくい、エコマーク付きの高強度磁器食器であり、これが第3回ものづくり日本大賞受賞に繋がり、第1回エコマークアワード受賞劇に繋がったのである。

PET ボトルリサイクルとリサイクル食器への取り組み

今では全国学校給食市場に供給し始めて9年目を迎えるが、残念な事に市場を席卷している樹脂食器メーカーは未だ、事の大切さに気が付かず資源保護に目を向けていない。50年前、国民生活にとけ込んでいた代表的なコカコーラの瓶が消え、今では容器としてPETボトルが常態化している。

PET ボトルリサイクル推進協議会のデータ（2013）では国内再資源化量258千トン、海外再資源化量239千トンの合計497千トンとなっており、推進協議会は廃PETボトルで繊維やトレーから「ボトル to ボトル」へと成品化しているが、未だ成品化率は0.9%しかないと発表（2016データ）している。

このPET樹脂素材価格は私が関与した高強度磁器素材と同様に約15万円/トンと高い素材である。この廃PETボトルを原料とし70%配合したリサイクル食器（写真）である。



廃ペットボトル70%配合原料のリサイクル食器（試作品）

不要なモノといえども海上投棄ができない時代に入り船内に廃棄物を保管しその廃棄物の資源価格をも知らされず、ただ単に陸の業者に処理委託をしている時代である。是非、会員各位にもここに気付いて頂きたいのである。「吾唯足を知る」のお皿（下写真）をご覧ください。全国行脚時、東京駅の改修で出る不要な廃レンガに出会い、これを入手し廃レンガをリサイクル陶土として活用すべく、東京駅構内で陶芸家を志す若者に食器や造形品を作成・発表させるというイベント開催の提案用に試作したお皿である。



東京駅舎改修工事の廃煉瓦



東京駅舎改修工事で出た廃煉瓦材を使ったエコ食器皿

これからのリサイクル技術と制度の紹介

船内から出る廃 PET ボトルが適切に処理され、後に高価な素材となりこのお皿の如く船内の食器として蘇る時代を迎えている。単なる処分では無く正に「ボトル to PET 食器」に仕上げ船内で再使用して頂く事が技術的に可能となって来たのである。乗組員各位のご支援が得られ船内調度品（エコマーク食器）として成品化させて頂ければ PET ボトルリサイクル推進協議会が目指す国益にも繋がると考える。

そのため、ただいま経済産業省のサポイン事業「デザイン開発の係わる技術」に応募すべく準備中です。ご参考までに私の樹脂素材調査によると以下の開発された技術と制度を繋ぎ、船舶の運航に関与される各位のご理解とご協力を頂く事で次世代に繋がるコトづくりは成就できると考える。船内の廃 PET ボトルが PET 食器に変わる過程の技術と制度を以下に紹介する。

1. 厚生省ガイドライン（FDA を含め）に則り、汚れた廃 PET ボトルを 3 次リサイクルの化学的処理（揮発留分除去）で安全な資源（フレーク）に再生する技術である。2 次リサイクルは物理的処理である。
2. 環境省は先々を考え広域認定を平成 16 年に制度化した。
製造業者に広域認定を取得させ、自ら販売し不要となった廃棄物を自ら回収させ資源循環を繋ぐ制度であり、資源価値が高いほど効果が上がる。現在、大企業と中小企業を併せ全国で 240 社ほどが環境省に登録されている。
3. 廃 PET フレークをペレット化し食器として製造する技術である。

この一連の流れを繋ぐまでのデザイン開発が、この経済産業省が求める基盤技術の高度化に該当すると考えての応募である。

かつて、船員社会に身を置き、20 万トンのタンカー（タービン船）を 2 等機関士として勤務し、転職後は全国行脚でニッチな学校給食市場で子供たちの食育、環境教育のためにエコマークの付きの磁器素材を開発しリサイクル高強度磁器食器を商品化した。

この廃 PET ボトルを「やじろべい」の如く「使う側」と「作る側」が互いの立場を理解し資源として循環させ活用したい。是非、ご理解とご支援を頂きたいです。宜しく申し上げます。



以上

練習船日本丸 ハワイ遠洋航海

航海訓練所 フェイスブックより

航海訓練所練習帆船日本丸は、昨年12月商船高専実習生等が乗り組みハワイへ遠洋航海に出航しました。商船高専学生への短期実習が行われるようになり、その制度移行のため何年ぶりかの正月を挟む遠洋航海となりました。

また航海訓練所における実習は昔とすれば様変わりしている中で現在の実習を少しでも理解して頂くために、航海訓練所からの承諾を得てフェイスブックの記事を転載します。

12/14 展帆 帆走開始

昨日の横浜出航時には多数の方々にお見送り頂きありがとうございました。

東京湾を出る頃には風力6以上の風となり、強い風と高い波の洗礼を受け船酔いと戦いながら初日を過ごしました。本日から展帆、帆走開始です。



12月24日 日付変更線通過

本日太平洋は大荒れの中、12時53分（日本時間9時59分）に無事、日付変更線を通過する事ができました。



12月25日 船上クリスマス

2日間のクリスマスイブが終わり、クリスマス本番になりました。

私達にとって、帆船日本丸でクリスマスを過ごすことは、人生の最初で最後の経験です。

食堂の隅にしつらえたささやかなツリーがクリスマスの気分を醸しだします。

12月28日(船内時) 正月準備

甲板上での餅つき

本日は午後から甲板上で餅つきを行いました。うすのセッティングも慎重にやりました。ロープでキャプスタンに固定。帆船ならではの手法です。昨日、学友会総務は、20KGの餅米をとぎました。



12月30、31日 船上の大晦日

日本ではもう大晦日。船内でも年越しへ向けて準備が進んでおり、本日は学友会総務により船内年賀状用ポストが設置されました。1月1日元旦に学友会総務が配達予定です。今年も残すところあと2日。日本は31日の大晦日。本船では「船内年賀状」や「書き初め」など、工夫を凝らした『正月企画』の準備が進んでいます。

謹賀新年

日本時間の1日 19:45、24-52N 158-29W にて日本丸も新年を迎えました。今年もよろしくお祈りします。



1月1日 元旦

本日、日本丸での元旦を迎えました。

日本との日付が1日違うことと、紅白歌合戦等を見ること等の大晦日ならではのことができないのは残念です。しかし、日本丸で仲間と迎えることができたこの日は、忘れることができない大切な1日になったと思います。

ハワイまでは目と鼻の先！ 帰りの航海も含めると残りの航海も半分になる頃です。日本に帰って、家族・友人に会いたい気持ちも心の片隅にあります。

1月2日 船上大運動会

本日、日本丸船上大運動会を行いました。

雨天の為、30分遅れで開始されましたが、けが人もなく無事終わることができました。

それぞれのチームが一丸となり戦う姿はまるで船上ではなく戦場でした!!

優勝は機関科実習生チーム、準優勝はセーリング1班でした。

短い準備期間でしたが、我々実行委員メンバーの企画・準備・会の進行だけではなく、物品や昼食の弁当を用意して下さった事務部の方々を始め、多くの方の協力があった成功を収めることができました。本当にありがとうございました。今日はぐっすり寝れそうです。



1月3日 畳帆作業

本日、畳帆を行いました。昨日の運動会の疲れも少しありましたが、無事、全ての帆を畳むことができました。

ハワイに到着するまでの最後の帆走当直が終わり、今日から機走が始まりました。つらく厳しい帆走当直でしたが、終わりだと思いと寂しい感じがします。

ハワイまで残りわずかとなりましたが、気を引き締めて残りの航海に取り組んでいきたいと思ひます。さきほど、ハワイ島を視認することができました。



1月6日

帆走訓練を終え、端艇訓練を終え、洋上生活にも慣れ、ハワイ時間にも慣れ、不自由不慣れた生活の中に楽しさを見いだす工夫と努力をしている実習生たちがとても頼もしく見えます。

昨夜からドリフティングを始めました。風潮流の影響は南へ1時間あたり約1ノット。島影に留まるために、18時から再び機関を使用して北へ25マイルシフトしました。

今日は昨日よりも雲は少なく、真っ青な空にくっきりと映えるマウナロアの稜線を仰ぎつつ、デッキ上に吊した洗濯ロープに毛布やシーツや洗濯物などを天日干し。

まだ、ホノルル入港前ではありますが、帰りの航海計画を具体的に考え始めました。日本を通過する低気圧の動向を見極めながら、時化を避けつつ、経済運航も維持しつつ、何より実習訓練を可能な限り公平になるよう配慮しつつ、東京湾を目指していきます。



1月6日

今日も機関科実習生は、体温を超える（39℃）機関室で整備作業を行っています。特に、往航では 234 トンも水を造った造水装置の整備は、熱交換器のプレートを1枚1枚掃除する地味な作業ですが、復航の水のときは僕達の腕にかかっているということを認識して作業を行いました。機関科実習生一同

1月7日

本日、機関科実習生はかねてより希望していたマスト登りに初めて挑戦しました。今回の目標はトップボード。マスト全体から見ると 1/3 程に位置しますが高さは 14m もあります。航海科専任教官と 1/O から登り方を教えて頂きました。登ってみるとかなり高く、下で見守って頂いていた機関長が小さく見えました。



しかし、景色はまさに絶景でした。いつも何食わぬ顔でロイヤルまで登る航海科実習生に尊敬の念を抱きつつ、僕達も負けて居られないと思いました。チャンスがあればさらに上のゲルンボードやロイヤルを目指したいと思います。

9日 0830 船内時（日本時間 10日 0330）

ダイヤモンドヘッドやホノルルの街並みが見えてきました。10時入港です。



2014 年度ジュニア・ SHIPPING ・ ジャーナリス賞 受賞報告

富山高等専門学校商船学科 千葉 元

2014 年 1 月末に、(公財)日本海事広報協会主催の「2014 年度ジュニア・ SHIPPING ・ ジャーナリス賞」に、富山高等専門学校商船学科 2 年生 (2015 年 4 月より 3 年生) の竹内めぐみ・中原嶺太郎の 2 名による作品、「The Crew and Their Spirits for Cutter ～カッターの起源、そして歩み・・・～」が、高校生部門の優秀賞を受賞した旨の通知がきました。

このコンテストは、「船」、「港」、「海運」をテーマとした、新聞を作成し、この出来栄を競うものです。今回の受賞作品は、商船学科 2 年生が、昨年 5 月の学園祭で行ったミニ研究展示をベースに、新聞形式の応募作品 (A3 が 2 枚) に仕上げたものです。カッター部で頑張っている、竹内、中原の両名は、カッターをいかに早く漕ぐか考える内に、カッターの歴史や長年に商船教育で取り込まれている意味を、様々な文献を調べ、またカッター競技のライバルの富山県立滑川高等学校カッター部の顧問の先生や、当校でカッター指導を担当している、当校航海学科卒業生の金山恵美技術専門職員にインタビューするなど、インターネットだけに頼らず、自分の五感と手足を良く使い、非常に頑張っており、自分たちの思いを、まとめあげました。

ここで優秀賞に選ばれた、小学生部門 3 点・中学生部門 3 点・高校生部門 1 点の 7 作品の入賞者が、作品の発表会を実施して、この中から国土交通大臣賞と日本海事広報協会賞が選抜されます。このコンテストは、一昨年まではジュニア・マリン賞と呼ばれたものが、リニューアルしたものです。ジュニア・マリン賞時代には、当校学生グループが過去に 3 回の優秀賞を受賞したことがあり、東京での決勝大会に望んでいますが、上位の賞を得たことがありませんでした。そして、2015 年 3 月 26 日 (木) に東京海洋大学にて優秀賞受賞 7 チームによる発表会が開催されました。ここで、優秀賞入賞 7 組のプレゼンテーション、審査員からの質疑応答があり、結果として、竹内と中原の作品は「日本海事広報協会会長賞」に決定しました。これは、高校生部門でのトップ、全体で次席の賞となります。以下に学生達の思いを記した感想文を載せます。

中原学生「今回、国土交通大臣賞は受賞することはできませんでしたが、日本海事広報協会会長賞というもう一つの大賞を受賞することが出来ました。今まで作品に没頭して頑張ってきた成果がでて、もちろん素直に嬉しかったです。私たちは何度もたくさんの図書を読み、参考にしたり、実際に体験談を先生方にインタビューしたり、話のまとまりを囲んで色分けしたり、読みやすい段組みやわかりやすい写真などを載せたりするなど、たくさんの工夫を施したから、受賞できたのだと思います。しかし残念なことに、表彰式前に発表しましたが、審査員の方にカッターの魅力が伝わらなかったことが、非常に悔しく心残りです。質問の応答でも緊張して頭の中が真っ白になって、適切な答えにまとまらなかったことも、かなり悔しいです。ですがここで失敗したことは、決して無駄ではないので、自分の大切な経験の一つとして積めたので、嬉しいです。この成功や失敗などの経験を今後の課題として励んで行きます。本当にこのような大賞を受賞でき、嬉しく感謝しています。」

竹内学生「日本海事広報協会会長賞を授かることができたことに対しても大変嬉しく思うが、それ以上に、この新聞コンクールを通してたくさんの方々にカッターという競技を広めることができ、そして知ってもらえたことには私は嬉しく思う。これを機に、1 人でも多くの方がカッターに興味を持ち、そしてカッター競技に手を伸ばしてほしい。」

また、そのためにも私はここで止まらず、これからもカッターをたくさんの人々に広めるために活動していきたいと思う。このような新聞コンクールがあれば どんどん応募していきたいし、これはまだ私だけでは実現が難しいかもしれないが、地域の小中学生を対象にカッターに触れ合うイベントや機会も作れたらいいなと考えている。そのときは、また 今回応募した新聞とはまた違う観点でカッターについて紹介していきたい。発表に関しては、極度の緊張で途中から自分自身でも何を言っているのか分からない状態になっていたため、これから人前で発表するという場を踏みこなし、緊張してもあがらないようになっていきたい。」

受賞式後に、受賞学生2名は全日本船舶職員協会に受賞報告に出向き、岩田仁会長をはじめとした皆様に、受賞についてのお祝いと、これまでの努力と今後の学校生活へのご激励のお言葉を頂きました。

こうして、学生が何かに打ち込み、これをまとめあげ、そして多くの人々の前で発表を行うということは、非常に貴重な体験で、今後の学校生活や将来の社会生活への良い勉強になると確信しています。そして、学生たちが自発的に、多くの商船学校の先輩方が、シーマンシップ取得の第一歩として触れてきたカッターをテーマに選んでくれたことを、非常に誇らしく、また嬉しく感じております。

今後も、学生には、こうしたチャレンジを積極的にさせたいと考えております。その際には、先輩である皆様に、色々と触れあえる機会も作ってあげたいと感じております。今後共に、ご指導並びにご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



発表会にてスクリーンに投影された受賞作品の説明を行う竹内学生（左）と中原学生（右）



[左]優秀賞受賞者と審査委員の記念撮影（前列左から3人目が竹内めぐみ学生，後列左から5人目が中原遼太郎学生） [右]日本海事広報協会会長賞受賞後のインタビュー

ポートラジオ業務担当者へ安全講話を実施

事務局長 七呂光雄

「東洋信号」（正式名 東洋信号通信社）と言えば何となく聞いたことのある方がおられるだろうが、さてどんな会社かというよく説明できないかもしれない。昔は、灯台近くから望遠鏡で船名を確認している会社だったが、今では情報化社会を代表するように船舶動静に関連した情報を提供している会社で、特に全国の港湾管理者が行っている「ポートラジオ」業務の大半を一手に引き受けて無線通話業務を行っている。大きな行事等で「報道記者席」に席が準備してあったとか、前の社長の本職は「女医」である等、何かとユニークな会社である。

昔観音崎や神島を通過する時に発光信号で船名問合せがあって新米サードオフィサーはビクビクしながら対応したが、この信号が海上保安庁からの問合せで強制力のあるものかと思っていたら、一民間会社である同社からの問合せ発光信号であったという事実を聞き、当時の緊張を考えれば若干怒りさえ感じるという会員もいるようだ。



さて同社との関わりの一つは、私がフェリー会社勤務時代に船長から「入港 S/B で忙しい時にポートラジオが呼んでくる」とのぼやきを聞き、コミュニケーションの大事さを痛感したことからである。陸上側は、ポートラジオから本船への問合せで正確な入港時刻等がわかり、それによって外航船ではCIQ、岸壁・荷役の準備等が行われている事を本船では理解していなかった。このような事から同社社員が停泊中にブリッジを見学したり、東京・博多航路 RORO 船で瀬戸内海航行を含む体験乗船を行ってポートラジオと本船のコミュニケーション向上に努めてきた。

全船協に勤務してからも VHF 英会話のパンフレットを作るに当たって同社から絶大な協力を得ることができた。

今回、船舶で事件・事故が発生した時の「司法・行政・民事への対応」について講演の依頼が私にあった。事件等が発生した時に司法的には警察・海上保安庁、行政的には国交省及び付属する運輸安全委員会・海難審判所、民事的には船舶保険、PI 保険等の保険者が関係してくるが、これらの関係者は「餅は餅屋」で自分の専門部署は強いが、他は知らないと言うか無関係という立場になる。しかし船長や船関係者は、広く浅くであっても全体をつかむ必要があり、同社としても「ポートラジオ」として本船と無線業務を行う担当者に基本的知識をつけるために今回の依頼となった。

同社に入社して数年が経ち中堅のポートラジオオペレーターとして現場責任者やチーフを目指す若い男女 15 名が対象で一部商船高専出身者がいたが、大半は一般大学出身で「英語はペラペラだが船についてはよく知らない」というイメージの方々である。船に関係ある話をすると言っても港内に関係する話でないといけないので、90 分位そのような話を中心に行った。



その後、行われた懇親会にも招待され色々船に関する対話ができた。ポートラジオがある地域は強制水先区にある港が殆どであり、水先人ともコミュニケーションが図れたらという声も聞かれた。

このような若い男女とコミュニケーションができれば水先人である本会会員の方にも、若返った気分になるだけでなく、安全運航の確保にも大きく貢献することになるのではないかと、その実現を希望するところです。

後輩の皆さん 英語の勉強の大事さを痛感しています！！

—商船高専卒業生より

私は、商船高専を卒業して瀬戸内海の港にある東洋信号通信社が請けているポータルラジオで勤務しています。当社であった七呂さんの講話を聞いたあと懇親会の席で先輩である七呂さんと高専生の英語力の事が話題となりました。

商船高専生が外航海運会社に就職を希望しても英語力が劣るが故に夢を絶たれている事や内航船でも AIS が装備され船名がわかるようになって外国船から VHF で呼ばれるケースが増え、内航船に乗船しても決して英語は無縁といいきれない状況になっています。

私自身日々の勤務で英語に悩んでいますし、七呂さんから後輩のためにも事実を訴えろと言われ、私のような若輩者でも後輩のために少しでも役に立てればと思い、今回書かせていただきました。

私は商船学校を卒業生しましたが、最初から船には乗らず、船に関する職場で仕事をしています。

主な業務は、港務通信として VHF 国際無線電話を使用して港に入港する船舶とやり取りをしています。外国船とは勿論英語での通信となりますが、現在働いている中で思うことがあります。

それは、「英語が全然できないということです」。

商船学校でも英語は学んだので専門用語の単語の“部分・部分”は理解出きますが、外国人船員が喋っている英語の全てを聞き取れることは殆どありません。特に英語の“なまり”がひどいと何回か聞き直してしまいます。その中でも中国人や韓国人の船員さん達は、独特の発音のため苦勞した記憶が多いです。

相手と話していて何となく言いたい内容が分かって、きれいに文章立てて返事を返すことができないことが多かったです。自分なりに考えて組み立てても話終わった後に先輩から文法がおかしい、イントネーション、区切る場所がおかしいと注意されることが多々あります。

さらに外国人船員に英語が正しくても通じない場合があり、相手が分かるまで同じ意味で違う文章の言い回しを何回か伝えていますが、自分なりに勉強しても実践の場ですぐに通じるわけでもなく何回か試行錯誤しながら伝えているのが現状です。

学校生活を振り返って、もう少し英語を勉強しておけば良かったと思います。外国航路を目指す学生であれば必須ですし、今後益々英語を使う機会は増えるので、内航を目指す人も陸上企業を目指す人も全く同じです。

後輩である皆さん、是非英語力をつけて、私のように「英語ができない」と悩むことがないように日々の英語勉強に励んでください。



遅れ馳せながら仏教を思う

名誉会員・海事補佐人 田中善治

世界中には様々な宗教があり、それぞれの信者毎に組織化してこの世を動かしているようだ。宗教を理解せずして世界は語れないと言われる所以であろう。特に最近の国際的な暴力行為はそれが顕著である。私のほぼ20年近い船員生活で約55か国の港に寄港した。外国航路の船員にとって厄介なことは、寄港地毎に民族、言語、政治体制、度量衡、通貨などが異なっていて、それにこちらが合わせなければならないことである。中でも気を遣うのは宗教だった。

アメリカやオーストラリアなどクリスチャンが多い港に入ると信者が訪船してシーメンズクラブやチャーチなどに誘った。でも宗教行事はなく、長い航海を労ってケーキとコーヒーでもてなしを受け、ビリヤードやダーツなどで遊ぶ程度だった。インドや中東方面では、人一倍強い信仰心を持っているのか、自分の信じる宗教を仕事そっちのけで熱心に説く者もいて辟易することもあった。

日本人というよりも、東洋人は皆ブッディストだと思い込んでいる多くの人々は、仏教とはどんなものかと好奇の目で見ると同時に、自分たちの信じているものよりも劣っている筈だ、という考えで接して来るものがほとんどだった。そのような者に対して、その地の言語での会話力もなく、どう対応すべきか、という以前に、そもそも、仏教について何も知らないということの方に引け目を感じて、情けなくも相手の言い分にただ頷くだけだった。

宗教に頼らなくても不都合なく生きていける、というのが今の日本人の大方の考えであろう。宗教論争など我が国には馴染まないと思っているに違いない。そう思いながらも先祖の供養を仏教儀式に求めているのは何故か……。先祖代々続いている習慣だから、との返答を是認するには、いとも浅はかに深遠な先祖の心性を否定していいのか、と再度問いたくもなる。

私自身、実家の宗派も知らずに大人になった。海上生活で色々なジャンルの本を読む機会があったが、仏教についての普遍的なもの、たとえばキリスト教における新約聖書やイスラムのコーランといった身近にあっていつでも手に取れるような解説書にお目にかかったことがない。いつか仏教について調べてみたいと思いながら月日は過ぎた。

8年前の春、不意に何かを学んでみたいという気持ちが湧いた。たまたま早稲田大学卒業の友人にそのことを漏らしたら、同大学のオープンカレッジはどうかと勧めてくれた。言われるままに問い合わせると、折り返し公開講座を詳細に説明したカタログが届いた。その中に個々の宗教を解説するものや、歴史と歴史上の人物から読み解く世界の宗教史、或いは、比較宗教学の立場から世界の宗教を分析するものなどがあった。そのほとんどに関心をもったが、無理のない範囲で週一日、三講座、規定の単位取得まで6年と決めて講座を選んだ。一日中宗教漬けになるのもどうかと思い、「日中交流史」とか「暦の歴史」なども織り交ぜた。受講料、交通費も然ることながら、自宅久里浜から早稲田まで2時間15分、容易ではなかった。

受講してみて先ず思ったのは、当然の事ではあるが、無礼を承知で言えば内容の質、量ともに濃厚な講義であった。このような講義を大学生は4年間も毎日受講していることへの驚きと羨みだった。高卒の自分にとっては経験したことのない別次元の場に足を踏み入れてしまったという戸惑いを感じた。

でも、やるからには悔いのないものにしようとの思いと、毎回の講義が待ち遠しいほど興味深いものだったことが継続のエネルギーとなった。

平成25年4月5日、当初の予定通り規定の単位を取得し、大隈講堂で鎌田 薫総長よりオープンカレッジ修了証書を受領した。一緒に修了したのは105名だった。その後も受講を継続している。

翌26年春、町内の有志の発起により「写経の会」がスタートした。きっかけは建て替えたばかりの我が家を妻の友人が見て回っていて、たまたま写経したのを見つけたことだった。私は全くその気はなかったが会の代表にされてしまった。月1回、自治会館に10名程集まって般若心経を写経している。しかし、その意味を分からずに書いているよりも、少しでもいいから意味を知った方が充実できると思った。そこで恩師である早稲田大学の長谷川名誉教授のお許しを得て、私が理解している範囲内で解説することとなった。

仏教界では馴染み深い般若心経（般若心経を經典として認めていない宗派もある）。玄奘三蔵法師訳が伝えられたと言われる漢字276文字、これに限らず一般の人にとって經典を一読しただけで理解するのは不可能である。なぜならば、現在ほとんど使われなくなったマガダ語、パーリ語、梵語などで書かれたものを漢字に訳す際玄奘は「五種不翻」を基準としたからである。

- 1、微妙深隠な言葉は訳せないから訳さない
- 2、一語の中に複数の意味があり訳せない場合がある
- 3、中国にないものは訳しようがないので音写しておく
- 4、訳せないわけではないが、昔から梵音のままにしてあるものは訳さない
- 5、訳してしまうと浅薄になる語句は訳さないほうが良い

（「般若心経はなぜ人を癒すのか」長谷川洋三著 木耳社 47,227頁）

幸い我々は表意文字である漢字を使用しているので、字面を見て何となく解るような気になる。とは言え、276文字の中に「無」21回、「不」9回、「空」7回と、否定や虚無をあらわす字が多く出てくる。般若心経は読む人によって夫々解釈が違うと言われる一因になっているようだ。そのうち私の解釈を書いてみようと思う。

本年3月2日、継母が94歳で亡くなった。出棺の朝、菩提寺の導師が来られる前に、喪主である兄の同意の下に読誦した。パーリ語の「礼拝」「三帰依」に始まり「開経偈」に続いて「摩訶般若波羅蜜多心経」と「延命十句観音経」を唱えた。出棺に立ち会うために集まっていた身内、親戚約30名はこれに違和感をもち、何か異変でも起きるのかと受け取ったようだ。

仏教經典は人類が生きるための規範を解いたもので、勿論お坊さんの専有物ではない。近年の商業仏教と化した現状を思うと、經典はおろか仏教それ自体さえも遠い存在となってしまったようで残念である。

（平成27年3月18日）

市民カッターレースで青春の汗を流しませんか！！

事務局

神戸大会 5月10日

- 趣 旨 港で働く人達や市民に、ウォーターフロントでの楽しい休日を過ごしていただき、親しみやすい港づくりと港湾・海事思想の普及をはかるため、昭和54年に始まった神戸港カッターレース。第37会を迎える今年も、神戸まつり行事として、来る5月10日にメリケンパーク東側海上で開催。
- 主 催 神戸港振興協会・神戸市みなと総局・神戸市民祭協会・神戸海事広報協会
- 日 時 平成27年5月10日（日）9時00分～16時
- 場 所 メリケンパーク東側海上
- レース 男子レース 63チーム 距離500m 32レース
女子レース 24チーム 距離300m 12レース
シニアレース 9チーム 距離500m 6レース
- 問い合わせ 一般社団法人神戸港振興協会 振興課 TEL 078-327-8982



横浜大会 5月24日

横浜港カッターレースレースは、帆船日本丸の誘致を記念して昭和60年から開催され、今年第32回開催となります。

昨年は、全部で210チームが参加し各商船高専OBチームからは一般の部で富山1艇（OBOB）、鳥羽1艇（錦浦会）、広島1艇（峨々羅山）、大島2艇（大島丸、ちどり）、弓削3艇（OBはまかぜ、OBかみじま、OBしらすな）、商船高専30期生、一般女子で大島1艇（すばる）等が出艇した他、本会会員がいる海上技術学校や水産系高校・大学や恐らくこれらの学校出身者も漕ぎ手になっている船会社系チームも参加して、おおいに盛り上がりました。

全船協は、本大会を後援しています。今年も次の通り開催されますので、漕ぐ自信のある方は漕手として、その他の方々は、各商船高専OBチームの応援に参加しましょう。

(1) 大会の概要

- 開催日 平成27年5月24日（日）08:30～17:00
- 場 所 横浜港山下公園前面水域及び公園内

(2) 競技の概要

- 出場チーム 211チーム
（一般レース 152チーム、シニアレース 20チーム、
女子レース、32チーム、小学生レース 6チーム）

(3) レース内容

- コース 往復360m、4コース ・使用艇 6m型カッター 8艇

(4) 本件に関するネット情報

一般社団法人 横浜港振興協会【検索 横浜港振興協会】で検索すれば、カッターレース情報を見ることができます。



検討委結論/大型コンテナ船折損原因、 想定超えた2つの負荷

国土交通省は3日、コンテナ船「MOL コンフォート」(8000TEU型)の折損事故を受けて設置したコンテナ運搬船安全対策検討委員会(座長=角洋一・横浜国立大院教授)の最終取りまとめを発表した。同委は同船の事故原因を、現在、各船級の構造規則で解析対象とされていない2つの力の影響が想定以上に強かったことによると結論。国交省ではIACS(国際船級協会連合)を通じ、各船級協会の構造規則に対策が盛り込まれるよう働き掛ける。

同委では、事故船がすでに沈没していることから、コンピューターによるシミュレーションを通じて事故原因を分析。

この結果、船型の大型化に伴って幅広になった船体に大きな横方向の負荷がかかっていたことに加え、荒天時の航行中に船体が打ち当たる波で生じる上下振動「ホイッピング」による縦方向の負荷が重なり、折損に至る強い負担がかかっていたことが分かった。

いずれの負荷も、構造規則上の解析対象になってはいないものの、造船工学の知見として認知はされていたため、各船級では船体の強度に、みなしの負荷に対応する程度の余裕を求めることで対応してきた。しかしMOLコンフォートの事故の場合、2つの負荷が合わさったストレスがその余裕を上回っていたために折損に至った。

同委の事務局となった海事局安全政策課では、「コンテナ船はバルカーやタンカーより高速のため、ホイッピングの負荷が大きい。加えて、大型化で幅が広がったわりには露天とせざるを得ないコンテナ船独特の船倉部の構造から、補強の要素も乏しい。他の船種や、より小型のコンテナ船、あるいは設計が変則となる超大型コンテナ船では見られない、8000TEU程度の大型コンテナ船ならではの要素が重なった」と説明する。

(2015年3月4日付け日本海事新聞)

横浜港/強制水先1万トン超に緩和。

8月1日前倒し実施

政府は3日、強制水先区である横浜川崎区のうち横浜港部分について、強制水先の対象船を従来の総トン数3000トン以上から、1万トン以上に緩和する政令を閣議決定した。施行日は8月1日で、当初めどとされていた10月から前倒しされた。危険物積載船については従来の要件が据え置かれる。

国土交通省では地元自治体などから規制緩和の要請が強かった横浜川崎区について、強制水先に関する検討会(座長=落合誠一・中央大学法科大学院教授)を通じて緩和の可否を検討。同検討会は横浜港部分について、船舶の大型化による入港隻数の減少や、南本牧埠頭の整備に伴い港湾の沖合展開で港内の輻輳(ふくそう)が緩和していることなどを背景に、要件の緩和を妥当とする結論を出した。

当初、緩和時期は東京湾で進められている管制一元化の横浜港での先行導入完了後の10月がめどとされていたが、2014年度補正予算によって同事業が前倒しされたことでスケジュールが繰り上がった。

(2015年3月4日付け日本海事新聞)

水先後継問題/公的検討会で解決へ。

船協会長、法人化「近道として提言」

日本船主協会の朝倉次郎会長は25日に開いた会見で、水先業務の引き受け主体の法人化など、水先業務の安定化に向けて解決すべき課題について、国土交通省海事局から公的な検討の場を設置して解決に取り組むとの回答を得たことを明らかにした。

(2面に共同声明)

検討会は海事局を事務局に、2015年度の早い時期に設置。同検討会の前段階となる議論を行ってきた日本船主協会と日本水先人会連合会に加え、学識経験者を交えた構成を予定する。

検討事項は後継者確保と安全確保。両事項を達成するための具体策と目される引き受け主体の法人化については、同2団体が「必ずしもそれありきの議論ではないが、課題解決の近道として提言している」(朝倉会長)ことから、議題となる見込みだ。

検討の結果、法人化に踏み切ることとなった場合の法改正の必要性については、日本船主協会の小野芳清理事長が「中身によっては水先法の改正という大ごとになる可能性もないとは言い切れない」とコメントした。

水先制度をめぐっては、07年の水先法改正の前後で料金制度を主眼に公的な議論が行われてきた経緯がある。しかし朝倉会長は「以前とは状況が違い、(検討会の場を求めた背景は)料金の高い安いではない。このままでは5年後には(人材確保の)危機が顕在化し、10年後には船が止まってしまうという危機感による」と、今回の検討が料金ではなく水先サービスの安全・安定性確保に主眼を置いたものであることを強調した。

(2015年3月26日付け日本海事新聞)

内航船主切実/船員不足で停船発生。

「けが・病気でも…」

内航船主が事業を継続していく上で、船員の確保が再重要な課題となっている。これまでも人手不足による影響は懸念されてきたが、昨年以降、ケミカル船などで船員不足による停船が発生。中小・零細規模の船主では資金的、人的余裕がなく若手の確保・育成が難しい状況で、「乗組員がけがや病気をした場合、船が止まる状況に陥ってしまう」といった切実な声が出ている。

内航業界では、55歳以上の船員が全体の約4割と高齢化が進んでおり、将来の人員不足が懸念されてきた。昨年はさらに状況が深刻化。内航ケミカル船では、船員の高齢化に加え、貨物船の高稼働による船員のシフトなどで、人材を確保できず停船するケースが見られた。

こうした状況に内航船主は、「停船の事態は、明日はわが身。1人でも船員が降りてしまったら、それだけで船が止まってしまう。補充できる人材もいない」と危機感を強めている。

また別の船主は「これまでは『いつか船が止まる』と業界で繰り返されてきたものの、実際に止まるような状況には陥らなかった」とした上で、「最近になって止まるようになってしまった。人材不足は深刻。

今は忙しくない船種、忙しい船種がそれぞれあって、人のやりくりがつくから、何とか船を止めずにいられる」と説明した。

(2015年3月4日付け日本海事新聞)

中国地方/船員需給が逼迫。

1月、求人倍率4倍

「船どころ」と呼ばれている中国地方で船員需給が逼迫(ひっぱく)している。中国運輸局がまとめた1月の船員労働需給によると、同運輸局管内の求人倍率は4・00倍となった。同局管内の求人倍率は2013年12月以降、3倍を超える状況が続いている。中国地方の内航船主からは「人材を確保しようにも、新たな船員を確保することに相当苦勞している状況。特にここ最近深刻になっている」との声が上がっている。

1月の有効求人数は376件で前年同月比32%増。前月比では24%増えた。一方、求職数は94件で前年同月比18%増加。今年度初めて求職数が前年同月を上回る水準となった。ただ、足元の求職数は80・90件台の水準で推移している。

1月の求職者は増えたが、依然として求人倍率が高い。11年度は1・93倍、12年度は2・29倍、13年度は2・91倍と年々上昇。13年12月以降は14年5月を除き3・5倍を超えており、14年10月には4・42倍を記録している。

「事業を継続するうえで、一番の課題は船員の確保」とする内航船主にとっては、求人倍率の高止まりは大きな懸念材料だ。

(2015年3月10日付け日本海事新聞)

大型カーフェリー労使/団体労働協約締結に合意、移行2年間は集団交渉継続

全日本海員組合(森田保己組合長)と日本長距離フェリー協会労務部会(阿部哲夫部会長)による大型カーフェリー労使の春闘が5日、スタートした。交渉入りに先立ち、大型カーフェリー労使は、船主側が2016年4月1日までに新たな船主団体を設立し、

17年度に全日本海員組合と同団体との間で、団体労働協約を締結することで合意。移行期となる15、16年度の労働協約改定は引き続き集団交渉を継続させる。

船主側の各社が加盟している日本長距離フェリー協会労務部会は2月24日、16年4月までに新たな船主団体を設立し、組合との間に団体労働協約を締結することを前提に、今年度の労働協約改定交渉について集団交渉による形態で行いたいと申し入れがされた。

大型カーフェリー部門の交渉では、07年3月31日に大型カーフェリー労務協会が解散して以降、これまで各社個別による労働協約改定交渉が行われてきたが、昨年は8年ぶりに労使双方合意を基に同協会労務部会と海員組合は集団交渉の形態で交渉を行った。

今回船主側の提案を受け団体労働協約締結の時期などについて、協議を行った結果、15年度は集団交渉、16年度も集団交渉の形態を取るが、その妥結結果を踏まえ、新たに設立される船主団体と団体労働協約を締結することで合意に至った。

労使が合意したことで、新たに設立される船主団体と組合の団体労働協約が10年ぶりに締結されることになった。

(2015年3月6日付け日本海事新聞)

船員部会

「海技教育機構」が存続法人に

航海訓練所との統合法案で報告

3月27日に開催された国土交通省交通政策審議会海事分科会第63回船員部会では、3月14日に今国会に提出された海技教育機構と航海訓練所の統合法案に係る報告などが行われた。それによると今回の法案は、「海技教育機構法の一部改正」という形をとる。これは海技教育機構を存続法人とすることから、航海訓練所の行っている業務などを海技教育機構法に追加したうえで航海訓練所法を廃止する、という形態をとることによるもの。

国交省では今国会に「独立行政法人に係る改革を推

進するための国土交通省関係法律の整備に関する法律案」を提出。これは平成25年12月に閣議決定された「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」に記載された事項を実行するため、同省所管の独法関係の事項を網羅する必要があるため、これらを一括法として提出したもの。

その一環として、前述の海技教育機構法の一部改正も含まれており、これにより海技教育機構と航海訓練所の船員行政を行う2つの独法について、教育体制の充実、教育内容の高度化、予算の柔軟な運用、発信力の強化などを図る観点から統合を行うこととしている。

今回の船員部会では事務局から、海技教育機構法の一部改正の中身について説明が行われ、第三条の「機構の目的」と第十一条の「機構の業務範囲」については、航海訓練所が従来実施していた航海訓練に関する業務を、引き移して追加する形を基本的にとっていること。

第四条では、統合後の本部所在地について、現在の静岡県からアクセスが便利な神奈川県に本部を構えることを規定。第五条では、航海訓練所が国に対して練習船等を現物出資しているところ、これを海技教育機構法に移し替える。第六条は理事の数で、航海訓練所には現行理事が2名いるが、これを引き継ぐなどの改正を行うことなどを説明。

さらに、「この法案によって学校の統廃合などは考えていないが、統合と同時期となる平成28年の入学生から、海技教育機構の愛媛にある波方海上技術短期大学校において、入学生の定員を10名増員し、80名から90名とすることとなった」ことなども報告した。

(H27.4.6 内航海運新聞より抜粋)

本部・支部だより

〈 本 部 〉

- | | | | |
|----------|-------------------------------------|----------|----------------------------------------|
| 14/10/07 | 海技教育財団 理事会 岩田 | | ル向け出港 横浜港 |
| 14/10/10 | 企画財政委員会 | 14/12/16 | 第2回高専・海事教育フォーラム
(東京 海運クラブ2階ホール) |
| 14/10/17 | 海技大学校 引間俊雄校長 来会 | 14/12/25 | 第3回HTW調査検討専門委員会(及川) |
| 14/10/19 | 広島商船高専校友会合祀式・理事会
七呂 | 14/12/26 | 仕事納め |
| 14/10/21 | 東京都教育庁総務部人事担当課長
他2名様 来会 | 15/01/05 | 仕事始め |
| 14/10/22 | 27年度第2回理事会 | 15/01/06 | 海技教育財団 理事長新年挨拶来会、
船主協会賀詞交歓会、執行役員打合せ |
| 14/10/23 | 航海訓練所 企画研究課訪問
(岩田・七呂) | 15/01/07 | 北星海運、コトラシステム訪問(岩田、
及川) |
| 14/10/24 | 第2回東京地方船員労働安全衛生協議
会・東京運輸支局 岩田・七呂 | 15/01/08 | 国交省船員教育室挨拶回り(岩田、及川) |
| 14/10/25 | 鳥羽商船京浜支部同窓会・大島商船小
松会同窓会 岩田 | 15/01/09 | 海洋会賀詞交換会(岩田、及川) |
| 14/10/27 | 第2回 HTW 調査検討専門委員会
(及川) | 15/01/09 | 室町海運訪問(岩田、及川) |
| 14/10/29 | 東京都観光汽船乗組員安全講話(七呂) | 15/01/13 | ジェイマリン 訪問 |
| 14/10/30 | 広報・ホームページ委員会 | 15/01/14 | 第2回企画財政委員会 |
| 14/11/04 | 一般法人解説セミナー(及川) | 15/01/15 | 第3回広報・ホームページ委員会 |
| 14/11/05 | 日本水先人会連合会訪問(及川・七呂) | 15/01/16 | JX オーシャン世話人との打合せ
(及川・七呂) |
| 14/11/11 | 公益法人会計セミナー(及川) | 15/01/20 | 北極海航路の航行安全に関する国際セ
ミナー(日本財団)(岩田・及川) |
| 14/11/12 | 海技教育機構本部訪問(岩田、及川) | 15/01/20 | シーライン東京来会 |
| 14/11/13 | 高専商船学科振興協議会 | 15/01/21 | 北極海航路の意見交換会(国交省)
(岩田・及川) |
| 14/11/15 | 海事技術者像調査サブプロジェクト
(大阪) 及川 | 15/01/22 | 富山高専遠藤先生来会 |
| 14/11/18 | 日本船舶機関士協会講演会(岩田) | 15/01/27 | 日本海事新聞社 鈴木記者来会インタ
ビュー |
| 14/11/19 | VHF 英会話委員会開催 | 15/02/02 | 執行役員 打合せ |
| 14/11/21 | 全日本海員福祉センター来会 | 15/02/03 | 関東旅客船協会 乗組員研修会(七呂) |
| 14/11/26 | NPO 法人故郷の海を愛する会
古川会長他2名 来会 | 15/02/04 | 商船系高専校長懇談会 |
| 14/11/28 | 弓削商船同窓会出席(岩田) | 15/02/09 | 第2回企画財政委員会 |
| 14/12/02 | 関東旅客船協会乗組員研修会 七呂 | 15/02/18 | 日本サバイバルトレーニングセンター
植木所長来会懇談 |
| 14/12/04 | 全船協・海福協合同講演会
講師 赤嶺副会長 | 15/02/23 | 航海訓練所情報通信システム室
小澤室長 練習船図書贈呈お礼で来会 |
| 14/12/05 | 執行役員打合せ | 15/02/24 | 富山高専運営諮問会議(及川) |
| 14/12/10 | 日本丸船長・機関長来会
ホノルル向け遠洋航海挨拶 | 15/03/03 | 日本殉職船員顕彰会理事会
(岩田・及川) |
| 14/12/13 | 日本丸遠洋航海出航式 ハワイ・ホノル | 15/03/04 | 日本海事新聞社 島専務取締役 来会 |
| | | 15/03/05 | 大島商船高専評議員会(赤嶺) |

15/03/10 無料船員職業紹介所に対する国土交通
省監査
15/03/11 海技教育財団理事会 (岩田)
15/03/12 第4回広報ホームページ委員会
15/03/17 東洋信号通信社講話 「事件事故発生
時の司法・行政・民事対応」(七呂)
15/03/20 日本海難防止協会理事会 (岩田)
15/03/23 海技教育財団 評議員会(及川)
15/03/25 航海訓練所 飯田理事長退任挨拶来会
15/03/26 富山高専学生・指導教官
シッピングジャーナル賞受賞挨拶来会
15/03/27 海王丸船長・機関長来会 サンフラン
シスコ・ホノルル向け遠洋航海挨拶
15/03/30 海難審判所 西村所長 退官挨拶来会

15/02/04 平成26年度5高専(商船)校長と全船
協役員懇談会
15/02/17 (一社)横浜港振興協会講演会「みなと
びとの遺伝子」小此木歌蔵氏、横浜港
運協会副会長兼神奈川倉庫協会会長
15/02/18 平成26年度第3回東京湾水先区水先人
会業務運営委員会
15/03/09 5高専(商船学科)練習生、郵船歴史
博物館と氷川丸の無料入場の説明の
為、銀河丸(午前10時)と日本丸(午
後12時)訪船、
15/03/11 海洋会横浜支部・講演会、演題「荒天
中の安全運航の為にパーティカルタイ
プスタビライザーと波浪レーダー」、
後懇親会
15/03/20 帆船日本丸警備公開入札
15/03/25 公財)帆船日本丸記念財団評議員会
平成26年度第3回全船協理事会
15/03/27 横浜福祉協会(全船協横浜支部)第3
回理事会
15/03/31 神奈川県警備業協会横浜港支部総会兼
懇親会。

< 横浜 >

1. 諸会合等

- (1) 平成26年度合同講演会、忘年・懇親会
12/04 計1回
(2) その他・懇親会 12/18、12/25、12/26
02/25、02/28、計5回

2. 具体的活動

14/12/04 (一社)横浜海洋福祉協会、全船協
横浜支部共催の講演会開催、演題
「北極海航路の現況を探る」、
講師;赤嶺正治氏
14/12/16 第2回高専(商船学科)海事教育フォ
ーラム、海運ビル
14/12/18 関係先へ年末の挨拶廻り
14/12/17 暴力団等排除対策協議会総会
14/12/25 関係先へ年末の挨拶廻り
14/12/25 仕事納め
15/01/06 仕事始め
15/01/14 海洋会横浜支部新年賀詞交換会
15/01/21 第32回横浜港カッターレース
第1回競技委員会
15/01/21 横浜水上警察署・武道始め兼新年賀詞
交換会
15/01/22 ジャパンマリンユナイテッド(株)
鶴見工場へ新年のご挨拶
15/01/22 神奈川県警備業協会新年賀詞交換
会
15/02/02 第32回横浜港カッターレース
第1回実行委員会

< 神戸 >

14/11/21 定例会 出席者4名
14/11/27 ビル総会今期も管理組合理事長就任
14/12/15 ビル理事会
14/12/24 定例会 出席者8名
14/12/26 会長来神
14/12/26 大掃除、仕事納め
15/01/07 関係先年始挨拶回り
15/01/08 新年会 出席者10名
15/01/14 企画財政委員会(東京本部)
15/01/21 ビル管理組合理事会、日本船舶機関士
協会神戸支部新年懇親会
15/01/30 第1回名古屋めいよう会
15/02/09 第3回企画財政委員会(東京本部)
15/02/23 定例会 出席者3名
15/02/23 ビル管理組合理事会、しんようクラブ
懇親会
15/03/23 定例会 出席者6名、しんようクラブ
引継ぎ
15/03/25 第3回理事会(東京本部)
15/03/27 ビル管理組合理事会

全船協の無料船員職業紹介所

事務局

当協会の会員は、主として船員教育機関の卒業生、海技免状受有者及び法人会員としての船社を会員とする公益団体であり、内閣府公益認定等委員会が承認した公益事業（継続事業）を主体として取り組んでいるところです。

その事業の一つとして「無料船員職業紹介事業」があり、平成19年8月1日に冬柴鐵三国土交通大臣より許可書を拝受してから今まで、当会員のみならず会員を通して紹介した実績は二桁になっております。

日本は海洋国家として、船舶による輸送活動無くして国民の文化・生活を維持することは不可能であり、その船舶を運航する船員については海洋基本法、海洋基本計画においても日本人船員の確保を第一に取り上げておりますが、船員数は一向に増加しておりません。

他方、船員教育機関を卒業した若手船舶職員は其々外航船社・内航船社に就職しておりますが、自分を取り巻く環境変化に対応しきれず、退職さらには海事産業から陸上産業へ転職して行っている状況です。

当協会としましては、一人でも多くの若手船舶職員が学校で学んだ専門知識を生かしながら上級船舶職員、更にはキャリアを生かした形での海事・海洋産業に進まれることを望んでおり、その一助として若手船舶職員の悩み事・相談事も含めて本人及び家族からの問い合わせに対応しますので、当協会本部（03-3230-2651）まで連絡して下さい。

事務局一同お待ちしております。

新事務局員の紹介

本部事務局員の田崎です、宜しくお願いします。

4月1日より全日本船舶職員協会 本部でお仕事をさせていただくことになった田崎 麻衣（たぎ まい）と申します。富山商船高等専門学校 商船学科航海コース、東京海洋大学 海洋工学部海事システム工学科航海システムコースを卒業後、海洋調査船での船員業務を5年半経験し、半年前に主婦へと転身いたしました。船員を退職する際は、大変名残惜しい気持ちでいっぱいでしたが、こうしてご縁があり、また船の世界に関わっていけることを大変うれしく思っております。

最近、通信教育で以前より興味があった心理学の勉強も始めたところです。資格の取得を目指しており、いつか船の世界に活かせるようになることが夢です。また、個人的には様々な船の女性船員の方といろいろお話して親睦を深めたいです。いつか、女性船員や船関係者の女子会などできたらいいなと思います。

女性に限らず、全船協本部にお越しの際には、会員の皆様にお目にかかれるのを楽しみにしております。至らぬ点多いかと思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

お知らせ

◇ 第45回戦没・殉職船員追悼式

第45回戦没・殉職船員追悼式を下記の通り執り行いますので、ご参列下さいますようご案内いたします。

本年は、戦後70年、45回目の記念式典として、皇室のご臨席をお願いしております。

日時：平成27年6月10日（水）正午～午後1時

式場：神奈川県立観音崎公園 戦没船員の碑（神奈川県横須賀市）

式次第：開式の辞、国歌斉唱、黙とう、式辞、献花、能楽奉納、閉式の辞、

懇親会：午後1時45分～午後2時45分

*式典は雨天決行、雨具の用意をお願いします。

*開式前に海上自衛隊横須賀音楽隊の前奏があります。（雨天の場合、前奏は変更になることがあります。）

*晴雨に関わらず受付は午前9時30分に開始します。

*乗用車による式場乗り入れはできません。

*午前9時30分から11時10分まで観音崎バス停から式場まで無料マイクロバスを運行します。

*懇親会終了の頃、午後2時30分から3時頃の間、観音崎京急ホテルから京急「馬堀海岸駅」まで無料マイクロバスを運行します。

*JR東京駅から観音崎バス停までの所要時間は約1時間30分です。

◇ 第26回「マリナーズ・アイ展」のご案内



第26回 人と海のフォトコンテスト

メインテーマ

海で働く人たち マリナーズ・アイ

—— 募 集 要 項 ——

- 1 テーマ： 海で働く人たち、海、船、港、海岸など（海を題材とした作品）
- 2 応募資格： 特に問いません。どなたでもご応募頂けます。
- 3 サイズ： カラー、モノクロ共四つ切、ワイド四つ切のプリント。（デジタルは A4 可。但し、1000

万画素以上)

- 4 応募枚数： 制限しません。
- 5 組写真： 組写真は3枚以内を一組とし1点と数えます。組写真はバラバラにならないように番号を付け、テープでとめてください。他の作品と混乱しないようにしてお送りください。(枚数欄には1/3、2/3、3/3と記載)
- 6 応募票： 応募票(自作も可)には題名・撮影地・住所・氏名・年齢・職業・電話番号等を記入し、応募作品の裏面に貼って下さい。応募票は作品1点ずつに貼り付けてください。
- 7 募集締切： 2015年5月20日(水)必着
- 8 審査員： 丹野 章(公社)日本写真家協会名誉会員、小松健一(協)日本写真家ユニオン相談役
- 9 審査日： 2015年5月25日(月)
- 10 発表： 2015年5月25日入賞者17名に直接通知します。
2015年5月29日以降 入賞及び佳作はHPに掲載。応募者には6月中旬に目録と開催案内を送付します。
- 11 展示： 大賞、推薦、特選、優秀賞および会長賞、特別賞の計17点と佳作約103点を予定。
- 12 展示作品解説： 小松健一氏による作品解説：2015年7月4日(土)14:00から(みなとみらいギャラリー)
- 13 会場会期： 本 展：みなとみらいギャラリー 2015年6月30日～7月6日
巡回展：北九州市立美術館：2015年8月6日～8月30日／神戸海洋博物館：2015年9月20日～10月8日
巡回展は入賞17点を展示。展示会場は無料。神戸のみ博物館の入館料が必要。
- 14 原版提出： 通知があった入賞者17名の方は、原版(ポジ、ネガフィルム、データ)をお借りして、全紙に引き伸ばして展示いたします。但し、保存がない場合は入賞を取消す場合もあります。
- 15 作品の帰属： 作品の著作権は応募者(作者)に帰属します。
但し、入賞作品は、当該コンテストの広報目的及び関連する印刷物等に使用場合があります。
- 16 その他：
 - ・大賞、推薦、特選、優秀賞、主催団体会長賞、特別賞の入賞作品は1人1点とします。
 - ・入賞決定後でも、主催者が類似または二重応募作品と認めた場合は、入賞を取り消すことがあります。
 - ・応募作品に肖像権を有する人物又は建造物等が含まれている場合は、公表の承諾を得た上で応募ください。
 - ・写真は乾燥させて、他の写真と貼り付いてしまわないようにしてください。(貼り付いたものは応募作品とみなさない場合があります)
 - ・額に入れたり、パネルに貼ったりしないでください。
 - ・応募作品の取扱いには細心の注意を払いますが、万一の事故に対する責任は負いかねます。
- 17 作品返却： 選に漏れた作品に限り希望者に返却いたします。詳細は次のとおりです。

【応募作品の返却について】

大賞、推薦、特選、優秀、佳作および会長賞、特別賞に選ばれた作品は返却いたしません。

◆返却を希望する場合は、郵便小為替1,000円を応募作品に同封し、応募票に「作品返却希望」と記

入してください。

◆応募作品の数にかかわらず、1,000 円です。(切手、現金では受け付けできません。)

◆郵便小為替について

- ・郵便局の“為替”窓口で、1,000 円分の郵便小為替を発行（購入）します。
- ・小為替の受取人指定欄は、無記入にして、応募作品に同封してください。
- ・発行の際に渡される「定額小為替金受領証」は大切に保管してください。

18 応募作品の送り先及びお問い合わせ先

(一財)全日本海員福祉センター 人と海のフォトコンテスト「マリナーズ・アイ展」係

〒106-0032 東京都港区六本木 7-15-26

電話：03-3475-5391 FAX：03-3475-5892 Mail：jss0511@jss01.jp

日本近海の海上予報が全面的に分かりやすくなります ～地方海上分布予報の提供開始～

気象庁は日本近海を対象とした海上の気象状況の推移を分布図形式で示した「地方海上分布予報」の提供を平成 27 年 3 月 18 日（水）12 時（日本時間）から開始されました。

気象庁では、日本近海における船舶の安全運航に資するよう文字形式の「地方海上予報」を発表しています。

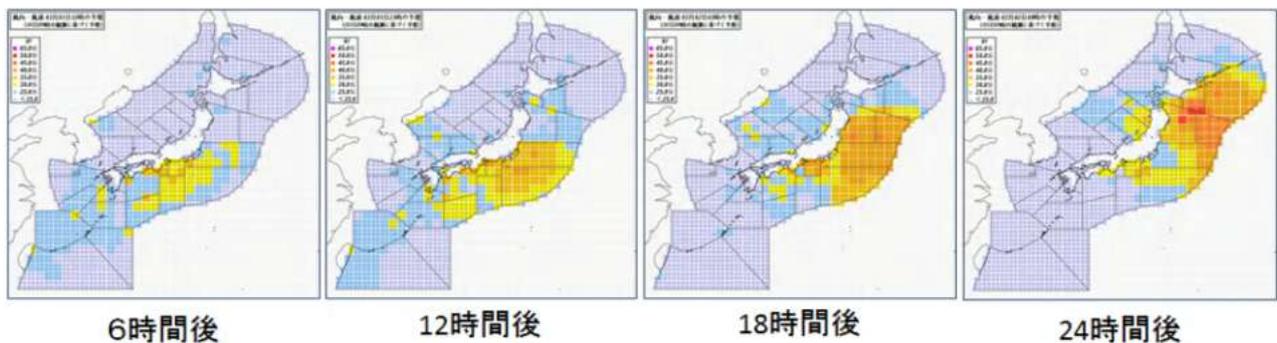
新たに提供する「地方海上分布予報」では、この地方海上予報の発表海域を、緯度方向、経度方向にそれぞれ 1 度四方の格子に区切り、「風、波、視程（霧）、着氷」の 6 時間ごとの分布を、24 時間先まで、1 日 4 回定時に（6 時頃、12 時頃、18 時頃、24 時頃）提供します。

これにより、日本近海の海上気象状況において、より詳細な分布と推移を、一目で把握できるようになります。最新の地方海上予報・警報及び台風情報等とあわせてご利用ください。

◎気象庁ホームページでの掲載ページ

http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/umimesh/fcst_umimesh.htm

【地方海上分布予報の発表例 1(風の例)】



中学校の先生
中学生の保護者の
みなさんへ



日本を支える船舶に、
夢をたくシテミマセンカ!

航海訓練所 帆船日本丸

国立高等専門学校(商船学科) 5校 合同進学ガイダンス

参加無料

目指せ! 船長・機関長。国立高等専門学校(商船学科)の先生や卒業生から船の仕事や将来性、入試案内や学校生活など貴重で楽しい話を聞くことができる進学ガイダンスを3カ所で開催します。参加費無料ですので中学校の先生、保護者の方、中学生の皆さん、是非この機会にご参加ください。

6・20(土) 広島
13:00~17:00

TKPガーデンシティ広島

広島県広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ
(募集人数:先着約100名様)

7・18(土) 神戸
13:00~17:30

神戸港新港練習船
「青雲丸」

兵庫県神戸市中央区新港町
(募集人数:先着約100名様)

7・20(祝) 横浜
13:00~17:00

ナビオス横浜

神奈川県横浜市中区新港2-1-1
(募集人数:先着約100名様)

主催:一般社団法人 日本船主協会 <http://www.jsanet.or.jp>

共催:独立行政法人国立高等専門学校機構

富山高等専門学校 鳥羽商船高等専門学校 広島商船高等専門学校 大島商船高等専門学校 弓削商船高等専門学校

後援:富山県教育委員会 三重県教育委員会 広島県教育委員会 山口県教育委員会 愛媛県教育委員会 神奈川県教育委員会 兵庫県教育委員会
独立行政法人航海訓練所 一般社団法人全日本船舶職員協会 一般社団法人日本長距離フェリー協会 文部科学省 国土交通省



船員になるための 国立高等専門学校があります。

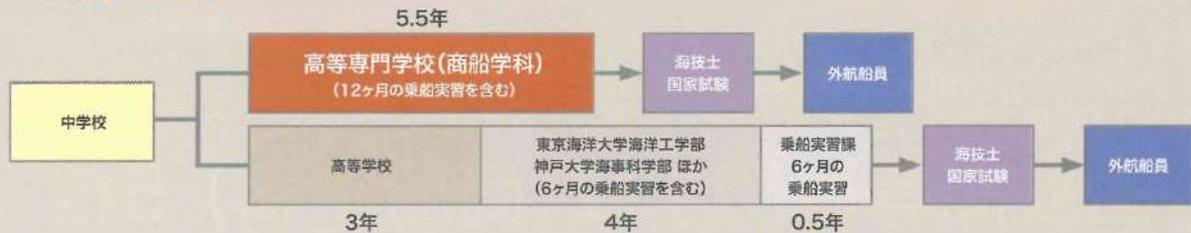
多くの資源を輸入に頼っている日本。そのほとんどは船によって運ばれています。そこで活躍している船員という職業の社会的使命は大きく、誇りをもってインターナショナルに活躍できる仕事です。

船員になるためには「国家資格」が必要です。外国との貿易に携わる外航船員になるためには中学卒業後に商船学科のある国立高等専門学校へ進学する道と、高校卒業後に専門学部のある大学へ進学する道があり、どちらも卒業すると、外航船員の国家試験(3級海技士)を筆記試験免除で受験することができます。

国際的な視野を持った 外航船員(海事技術者)の養成。

貿易立国、技術立国の日本を支え、広く世界へ、未来へと羽ばたく国際性豊かなたくましい若者を育てています。商船学科のある国立高等専門学校は、全国に5校「富山(富山県)、鳥羽(三重県)、広島(広島県)、大島(山口県)、弓削(愛媛県)」があります。5年半にわたる一貫した教育システムにより高い水準の専門知識を身につけることができ、卒業時には準学士の称号が与えられます。外航海運会社などの一流企業をはじめ官公庁等からの求人も多く、また、三級の海技免状を必要とする国内の長距離フェリー会社でも活躍することができます。なお、卒業後に大学の3年次に進学することもできます。

外航船員への道のり



参加申込方法

下記の参加申込書に必要事項をご記入の上、メール・FAX・郵送でお申込下さい。
※申し込まれた方には、5月下旬頃より、順次入場券を送付いたします。

●希望参加会場に印をお付けください。横浜会場については、ガイダンス前の以下時間帯にて帆船日本丸の総帆展帆が見学できます。

<input checked="" type="checkbox"/>	広島会場	<input checked="" type="checkbox"/>	神戸会場	<input checked="" type="checkbox"/>	横浜会場	総帆展帆(10:30~11:30)に参加	する	・	しない
-------------------------------------	------	-------------------------------------	------	-------------------------------------	------	----------------------	----	---	-----

※横浜会場にて総帆展帆に参加ご希望の方には別途ご案内させていただきます。

●参加者全員(保護者・同伴者)のお名前・学年または年齢をご記入ください。

フリガナ 参加者氏名	() 年生 () 歳	フリガナ 参加者氏名	() 年生 () 歳
フリガナ 参加者氏名	() 年生 () 歳	フリガナ 参加者氏名	() 年生 () 歳
フリガナ 参加者氏名	() 年生 () 歳	フリガナ 参加者氏名	() 年生 () 歳

●中学校名をご記入ください。

中学校名	中学校
------	-----

送付先

メール: e-mail:guidance@jsanet.or.jp FAX:03-5226-9166
郵 送: 〒102-8603東京都千代田区平河町2-6-4海運ビル
日本船主協会「ガイダンス係」

●入場券送付先をご記入ください。

フリガナ 氏 名	〒	—
電話番号	ご住所	
当日の連絡先 ()		

お問い合わせ 一般社団法人 日本船主協会 TEL.03-3264-7178 担当:山口

お申込者に関する情報は、進学情報、海運広報に関してのみ利用させていただきます。

会費納入者御芳名 (敬称略)

平成26年 12月4日～平成27年 4月13日

12月	菅 篤志	藤野 晴久	柴山 隆史	吉村 英昌	廣瀬 憲博
	神田 和也	古川 大樹	末次 徳明	漁野 智洋	福田 祥司
<個人>	岸 英	堀江 貴義	杉野 智	和田 雅人	藤坂 祐介
(9,600円)	鬼頭 弘治	堀江 誠	鈴木 直也	渡邊 真史	藤澤 直樹
秋山 晃満	久保 潤一	松野 克昭	瀬川 尚吾		道渕 卓弥
内田 安昭	久保田 一顕	松村 茂実	染矢 真行	川崎汽船	宮本 和弘
大橋 泰夫	熊谷 英樹	三宅 俊哉	高本 和雄	(9,600円)	村松 賢一
木村 公太郎	蔵田 恒志郎	森 健介	田川 寛大	青木 雄大	山下 裕規
武藤 登	黒木 修	森 団平	滝浦 文隆	足立 吉久	山本 将吾
	小谷 佳秀	森 光生	竹原 敏宏	穴太 康平	横田 守弘
共栄タンカー	小西 智子	森川 勉	舘山 広利	阿部 昭敬	
(4,800円)	小林 佳寛	森下 辰郎	田村 孝夫	石田 宗久	
石田 健一郎	佐々木 勝吉	安井 修三	綱島 毅	大澤 博次	
浦田 建	佐々木 努	山森 大幹	寺西 尚平	岡本 龍太	
小林 利萌	佐藤 祥二	吉岡 哲也	徳山 公彦	小原 光	
佐藤 好司	澤田 和志	吉野 均	中尾 拓弥	加藤 健真	
外谷 正彦	清水 栄喜	渡邊 優	中川 敏昭	金子 海里	
中野 寛士	習田 誠至		中塚 達也	亀山 真吾	
	杉本 賢斗	商船三井	新田 真一	川本 康一郎	
日本郵船	杉山 栄作	(4,800円)	二ノ倉 彰一	鬼頭 和江	
(9,600円)	杉山 治	浅田 幸一	萩原 栄二	楠本 竜也	
相原 隆志	鈴木 直	朝日 健二	迫間 利紀人	小山 靖	
赤松 健康	須磨 秀文	安達 勇治	橋口 靖生	小山 陽平	
芥川 俊久	高橋 英次	阿部 誠	八田 真紀生	佐々木 薫	
麻生 恵毅	瀧口 龍雄	栗田 和彦	濱田 雅秀	佐藤 悠記登	
安達 昌弘	田中 英治	伊賀 勇治	浜田 祐司	白石 真純	
池田 和人	出口 孝治	伊藤 浩也	濱松 直也	末永 智之	
石井 秀典	堂脇 幸男	上野 昇	早柏 隆太	杉枝 伸哉	
泉 良充	徳田 健二	宇佐見 航一	平木 恵介	田中 拓海	
一原 勝彦	富田 佳彦	梅田 尚宏	廣村 匡俊	田村 安英	
岩本 真一	富永 栄治	上井 博明	福井 栄	千葉 優太	
内山 拓哉	長井 一剛	枝次 真治	福井 悟	寺口 直宏	
應治 俊幸	中西 智章	大宅 理志	藤井 仁	富田 稔	
大木 昭和	中西 裕紀	岡田 稔	藤川 政良	友光 雄太	
大下 尚	永野 努	沖原 邦彦	間島 崇夫	長尾 徹也	
太田 幸久	中原 雅光	片渕 敏之	松下 薫	中上 靖教	
大野 晃照	中矢 眞央	金子 大輔	溝渕 真太郎	長沼 竜二	
大原 智喜	成田 龍之介	亀山 栄二	森光 誠	中野 陽介	
大類 健三郎	鳴海 弘晃	河本 優	柳井 孝之	中村 敦也	
岡田 悠紀	萩原 智昭	木元 孝憲	山岡 宣之	永村 大輔	
岡本 二郎	橋出 修一	栗原 誠	山口 智彦	鍋島 誠	
笠松 法昭	半田 洋樹	越田 亘	山下 育孝	浪切 聡史	
梶山 勝徳	福岡 功	児玉 賢志	山本 和之	西岡 圭志	
鹿渡 正次	富士 竜太	西條 和政	山本 真丈	西川 信紀	
川上 哲治	藤田 繁	酒井 勇樹	百合野 剛	野田 恭平	
川西 雄太	藤田 裕	佐々木 翔輝	吉見 慶	原田 信夫	

会費納入者御芳名 (敬称略)

平成26年 12月4日～平成27年 4月13日

12月		1月		2月		3月		4月	
JXオーシャン (4,800円)		Jマリン (9,600円)		<個人> (9,600円)		<個人> (9,600円)		<個人> (9,600円)	
秋元 光博	相澤 功	嵐 公司	安藤 昌徳	阿久根 浩人	加治原 二仁	加藤 明洋	高田 勉	出貝 孝洋	高田 勉
井本 義之	筏井 啓	大友 峰治	大竹 健士	石川 巖	加藤 明洋	小谷 卓哉	出貝 孝洋	友利 賢吾	出貝 孝洋
上澤 恒介	上山 雄基	梶原 仁	小川 俊明	石田 寛史	小谷 卓哉	小林 大	友利 賢吾	中玉利 治	友利 賢吾
大木 未来	清水 洋平	佐藤 信義	角田 俊一	井手 暁郎	佐々木 亨	下山 政志	中玉利 治	西本 雅之	西本 雅之
鬼塚 夕季愛	時松 勇貴	秦 誠次	黒川 竜司	河口 賢	武田 康裕	種谷 収	新田 浩貴	早崎 弘泰	早崎 弘泰
勝木 輝明	富山 幸弥	杉山 博	貞方 利彦	北城 雄太	種谷 収	佃 匠	早崎 弘泰	二川 英樹	二川 英樹
川越 孝樹	廣瀬 潤一	原田 昭二	佐藤 忠相	寒河江 芳美	長井 大気	長井 大気	二川 英樹	古川 洋	古川 洋
近藤 亨子	前田 龍弥	オーシャントランス (9,600円)	田口 徹	浪岡 良一	納 英治	西村 敏和	古川 洋	本田 修	本田 修
齋藤 淳		安藤 昌徳	西村 悠汰	西村 誠	西脇 将智	野崎 陣	本田 修	本田 修	本田 修
境 慎吾		大竹 健士	花田 靖幸	西村 誠	野崎 陣	福畑 裕士	本田 修	本田 修	本田 修
清水 洋		小川 俊明	原田 修平	西本 雅之	野崎 陣	福畑 裕士	本田 修	本田 修	本田 修
周佐 智也		角田 俊一	黒川 竜司	橋之口 勉	福畑 裕士	松村 祐治	本田 修	本田 修	本田 修
須田 浩明		黒川 竜司	貞方 利彦	原田 圭司	松村 祐治	山下 真理	本田 修	本田 修	本田 修
高田 勉		貞方 利彦	佐藤 忠相	松田 翔平	山下 真理	湯浅 高昭	本田 修	本田 修	本田 修
辻川 慎吾		佐藤 忠相	田口 徹	三谷 了	湯浅 高昭	吉田 茂樹	本田 修	本田 修	本田 修
出貝 孝洋		田口 徹	西村 悠汰	山下 芳男	吉田 茂樹		本田 修	本田 修	本田 修
濱岡 良昭		西村 悠汰	花田 靖幸	山田 司			本田 修	本田 修	本田 修
早崎 弘泰		花田 靖幸	原田 修平	吉岡 遼馬			本田 修	本田 修	本田 修
二川 英樹		原田 修平	松野 直高	吉田 悟			本田 修	本田 修	本田 修
古川 洋		松野 直高	松本 佳岳				本田 修	本田 修	本田 修
堀井 堅教		松本 佳岳	三村 宜寛				本田 修	本田 修	本田 修
本田 修		三村 宜寛	宮澤 優太				本田 修	本田 修	本田 修
蒔田 和成		宮澤 優太	元田 啓一				本田 修	本田 修	本田 修
松村 翼		元田 啓一					本田 修	本田 修	本田 修
三井 彰雄							本田 修	本田 修	本田 修
宮地 昭							本田 修	本田 修	本田 修
山縣 匠							本田 修	本田 修	本田 修
山田 健太							本田 修	本田 修	本田 修
山田 隆二							本田 修	本田 修	本田 修
山本 頼之							本田 修	本田 修	本田 修
脇坂 智哉							本田 修	本田 修	本田 修
渡部 剛							本田 修	本田 修	本田 修
大阪湾水先人 (9,600円)							本田 修	本田 修	本田 修
高橋 健治							本田 修	本田 修	本田 修
<終身会費> (50,000円)							本田 修	本田 修	本田 修
田中 忠士							本田 修	本田 修	本田 修

海の図書室

～新刊紹介～

日本の海洋資源

佐々木 剛 著



日本は、ただの島国ではない。国土面積は世界 61 位でも、世界 6 位の海洋面積を誇る類いまれな島国なのだ。しかも、水産資源や海洋エネルギー・鉱物資源など、豊富な資源を備えた「海洋資源大国」なのである。

すでに各国は、この資源を虎視眈々と狙っており、未来を見据えているが、当の日本人の意識は薄い。このままでは、日本の海は危うい……。

日本は、国土面積でいえば世界 61 位だが、領海と排他的経済水域(EEZ)の総面積では世界 6 位であり、まさしく海洋資源大国である。古来、日本は海を慈しみ、その恩恵を受けて経済や生活の基盤を整えてきた。ところが今日、水産物の消費は減り、水産・海運業界は時代の潮流から取り残され、凋落している。しかし世界的な食糧危機、およびエネルギー問題と直面する中、今こそ日本はこの資源を、新たな視点から構築・整備し、再生・発展することが求められている。この「宝の海」を他国も虎視眈々と狙っており、一刻も猶予ならない。

発売先 祥伝社

〒101-8701 東京都千代田区神田神保町 3-3

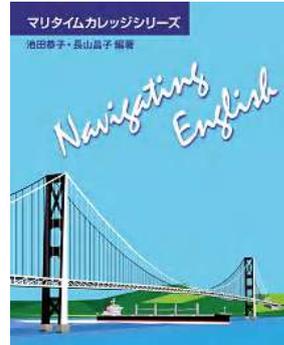
Tel 03-3265-2081

<http://www.shodensha.co.jp>

<マリタイムカレッジシリーズ>

Navigating English

池田恭子・長山昌子 編著



みなさんの多くは、いつか海や船に関する仕事につきたいと思って日々学習や実習に励んでいるかもしれませんが、あるいは、本当にやりたいことは他にあると思っている人もい

れば、まだそれが見つからないという人もいます。そもそも「働く」とか「仕事をする」ということがまだピンとこないという人もいるでしょう。しかし、海や船に関する仕事につこうと思っている人はいうまでもなく、将来どのような方面に進むにしろ、現代では英語を使って自由にコミュニケーションする力が必要になっています。

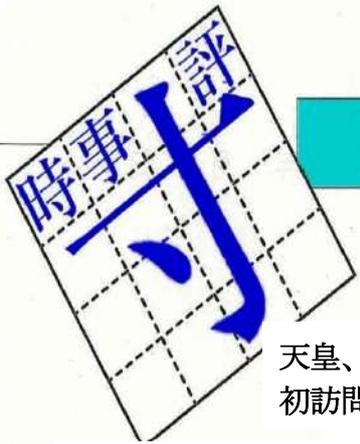
本書を使って積極的に学ぶことで、英語という武器（あるいは道具）を獲得し、それぞれの夢に向かって飛翔することができるでしょう。また、海を舞台とした仕事について学ぶことで、働くことについて、異なる文化背景を持つ人と仕事することについて、より具体的なイメージを持つことができるでしょう。

本書は、「仕事」「海」「英語」の 3 つをキーワードとして書かれています。言い換えると、英語を通じて「海」に関わる「仕事」を学ぶことで、目指す目的地がはっきりと見えてくるように工夫されています。

みなさんが英語という翼を背につけて、大海原を疾走し、夢に向かって空高く舞い上がる姿を確信しています。Hitch your wagon to a star!（汝の馬車を星につなげ）そんな思いを込めて、本書はつくられました。（「はじめに」より抜粋）

A5 判・224 頁・定価（本体 2,200 円＋税）

発行＝海文堂出版株式会社



天皇、皇后両陛下パラオ 初訪問と戦後 70 年談話

平成 27 年 4 月 8 日午後、天皇、皇后両閣下は戦後 70 年の「慰霊の旅」で、初めて第 2 次大戦の激戦地、西太平洋のパラオ共和国を訪問された。ペリリュー島及びアンガウル島を含めたパラオ全体で日米計約 1 万 8 0 0 0 人（内日本兵約 1 万 6 0 0 0 人）が戦死した。パラオ政府主催の晩餐会で天皇陛下が「パラオの地において、先の戦争で亡くなったすべての人々を追悼し、遺族の歩んできた苦難の道をしのびたいと

思います」と戦没者と遺族に対して述べられた上に、パラオ、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島の各大統領に対し、「貴国民に空襲や食糧難、疫病による犠牲者が生じたのは痛ましいことでした」「太平洋に浮かぶ美しい島々で、このような悲しい歴史があったことを、私どもは決して忘れてはならないと思います」と述べられている。翌 9 日には、ペリリュー島の「西太平洋戦没者の碑」に、日本から持参した白菊を供花され、さらに「米陸軍第 8 1 歩兵師団慰霊碑」にも花輪を供えられた。天皇陛下の気持ちを素直に表しており、戦後 70 年談話の内容について学識経験者による検討を進めているさなか、国民が共感できるように是非参考にしてほしいものである。
(TO 記)

表紙写真 海洋地球研究船「みらい」 提供先 JAMSTEC

（全長 128.5m、幅 19m 総トン数 8,706 トン、定員 80 名（乗組員 34 名／研究者 46 名）、竣工年 1997 年）

前身は日本初の原子力船「むつ」。1995 年に原子炉を撤去された「むつ」は、1996 年 8 月 21 日に通常のディーゼル機関を搭載した海洋地球研究船「みらい」と命名され生まれ変わりました。

優れた耐氷性、航行性を有し、広域かつ長期にわたる観測研究が可能な特徴を生かして、北極海や太平洋、インド洋など亜熱帯・亜寒帯海域での海洋調査を専門に、海洋地球研究の最先端国際洋上基地、多様な海洋地球データ発信基地としての役割が期待されています。

編集後記

大島商船名物の手旗踊りに関する記事をお願いし、今回掲載できました。残念ながら動画で紹介することはできませんが、「海のロマンス」の歌に乗って踊る姿が浮かびます。私も昨年日本丸が横浜出航した時の手旗踊りを YOU TUBE で「大島商船手旗踊り in 横浜日本丸」として紹介しています。

航海訓練所の実習は、短期実習が実施されるなど時期的な変化だけでなく、過去の時代の実習とは様変わりしているところがあります。ありのままの実習生活を見て頂くために、航海訓練所の承諾を得て同所のフェイスブックから掲載しました。現在の実習制度を理解する一助になればと思います。

MS 記

全船協 No. 128 春季号

平成 27 年 5 月 発行

◇発行所・一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇編集兼発行人 及川 武司

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-2-34 千代田三信ビル 8 階

TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653 E-mail:honbu@zensenkyo.com

Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 石橋 武

本 部 〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル 代表 TEL (045) 650-3180 FAX(045) 663-4811
オペレーション部 TEL (045) 681-4081 FAX(045) 681-4090
URL:http://www.tokyobay-pilot.jp TEL (045) 681-4091

東京事務所 〒108-0022 東京都港区海岸3丁目33番17号 TEL (03) 3453-1691 FAX(03) 3453-4025
千葉事務所 〒260-0023 千葉市中央区出洲港15番1号 TEL (043) 242-6391 FAX(043) 248-2553
木更津事務所 〒292-0836 木更津市新港8番5号 TEL (0438) 36-0700 FAX(0438) 36-4696
川崎事務所 〒210-0869 川崎市川崎区東扇島38番地1 602号室 TEL (044) 266-8877 FAX(044) 266-8877
横須賀事務所 〒239-0831 横須賀市久里浜8丁目10番6号 TEL (046) 835-5709 FAX(046) 835-4977

田子の浦水先区水先人会

会長 大久保 博史

副会長 漆 畑 忠雄

〒416-0936 静岡県富士市中河原28-2
電話 (0545) 33-0734

伊勢三河湾水先区水先人会

合同事務所
〒475-0831 愛知県半田市11号地1番5
電話 (0569) 23-0713

名古屋事務所
〒455-0033 愛知県名古屋市港区港町1番9号
電話 (052) 654-1281

関門水先区水先人会

会長 中村 和義

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目4番24号
電話 (093) 332-2384(代)

鹿島水先区水先人会

会長 久 郷 良夫

〒314-0052 茨城県神栖市居切1909-16
電話 (0299) 82-5515
FAX (0299) 82-6205

鹿児島水先区水先人会

会長 今村 義幸

副会長 松下 忠夫

水先人 橋之口 勉

〒891-0122 鹿児島市南栄5丁目10-8
電話 (099) 260-7707
FAX (099) 260-7717

海事業界メディアのバイオニア
日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは
電話 **03-3436-3222** まで

電子版サービス「マリナビ」は
www.marinavi.com へ

海員会館ご案内

エスカル 釧路 (0154) 22-3998

ナビオス 横浜 (045) 633-6000

エスカル 室蘭 (0143) 22-7009

エスカル 神戸 (078) 341-0112

川崎海員会館 (044) 233-5896

エスカル 戸畑 (093) 881-0979

エスカル 横浜 (045) 681-2141

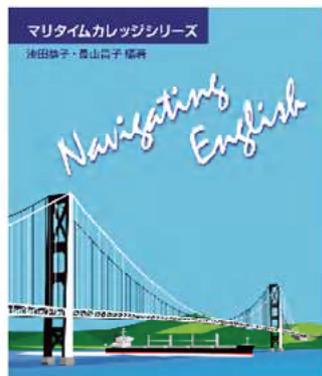
<http://www.jswa.or.jp>

一般財団法人 日本船員厚生協会 電話 (044) 221-7210

どなたもご利用いただけます

マリタイムカレッジシリーズ

Navigating English



池田恭子・長山昌子 編著

商船系教育機関で学ぶ若者を主な対象として、仕事／海／英語をキーワードに、①海や船に関する仕事を英語で表現できるようになる、②英語を使って世界の人々とコミュニケーションする力を伸ばす、③英語学習を通じて仕事や生き方が見えてくる、という目標を掲げて編集されている。英語音声はHPから自由にダウンロードできる。

A5判 224頁 定価(本体2,200円+税)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3292 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<http://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

会員各位 平成27年度通常総会 開催通知

1. 日 時 平成27年5月29日（金） 15時00分～17時00分
2. 場 所 全日本船舶職員協会 本部会議室
3. 議 題 第1号議案 平成26年度事業報告(案)
第2号議案 平成26年度決算(案)

※正式には会報と一緒に送付される「議案書」をご参照ください。

同封の葉書等で出欠・委任・書面表決等の総会手続きを行ってください。

通常総会が成立するには、会員の半数以上の出席が必要となっています。
総会に出席できなくても、会報に同封された通知表で「委任」または「書面表決」を行ってください。

ファックスや電子メール・ホームページ・携帯メールで回答されても有効です。

携帯メールの場合は、右のQRコードをご利用くだされば、簡単に送信できます。

